

【11/30(日) 常総生協「平和の集い2014 in 牛久」】

戦争で親を失くした遺族のお話を聞きます

【日時】11月30日(日) 9:30~11:30
【会場】牛久市生涯学習センター小講座室
(牛久市柏田町1606-1)

〇親子で聞きますか

全滅したニューギニア戦線で父はどのような状況だったのか、最期の思いは何だったのか、なぜニューギニア戦線は語られないのか...

〇再び戦争をしそうな今の日本

戦争はその時だけでは終わらない。そして戦争への道に突入する兆候があった。そして今再び戦争への道が用意されるかのような出来事が続く。集団的自衛権行使の閣議決定、日米防衛協力ガイドライン見直しによる日米同盟強化で機敏性・機動性ある世界規模の出動態勢の準備、迎撃ミサイルの日米共同開発生産体制、新型潜水艦の日米豪共同開発。

改憲への準備、そして沖縄米軍基地の辺野古移転による日米合同「軍港」化。

米軍沖縄基地の辺野古移転に抗議する市民に対しては、何と「刑事特別法を適用する!」と叫んで市民5人を突如拘束(9月)。市民を標的にした拘束はエスカレートして大量拘束に至っている。今、この国で何が始まろうとしているのか?そして国民は何に巻き込まれようとしているのか...

かけがえのない一人ひとりの命、家族の生活を踏みにじってゆく戦争の現実、残された遺族の苦勞を生の言葉でお聞きます。

詳細、参加申込は今週折り込みの右チラシにて。



【常総生協も上映実行委員会 映画『A2-B-C』】

低線量被ばくに晒される福島の子どもたちを追う

【日時と会場】
① 11月26日(水) 10:30~ もっくんカフェ
② 11月28日(金) 10:30~ 19:00~
③ 11月29日(土) 10:00~
つくばサイエンスインフォメーション
【参加費】500円(上映協力金)

「20mSv 以下は安全」とされて、放射能に汚染されて無用な放射線に晒されて生きる福島の子どもたち。

日本在住のアメリカ人監督イアン・トーマス・アッシュさんが原発事故から11日後に現地入りし、汚染地帯で暮らす子どもたちの厳しい現実にカメラを向けたドキュメンタリー。

けない現実に悲しくなりますが、私たちはこの現実をしっかりと見つめ、大人が何をしてあげられるのか、考え行動しなければなりません。

つくばを中心にしたお母さんたちが実行委員会を作って上映会を企画しました。

28日PMは「知る見るカフェ」も開催。ぜひごいっしょにお話ししましょう。

詳しくは今週の別チラシで。



【ものづくり 人づくり 地域づくり】

「もう国に任せてはおけない!」

市民による スロンチウム 90 の測定へ
たらちねβラボ プロジェクトに
常総生協も参加します!

いわき市民放射能測定室「たらちね」



ストロンチウム・トリチウムのベータ線を測定するフィンランド製の液体シンチレーションカウンター(黒)

收拾の見通しがつかない福島第一原発。海へはストロンチウムやトリチウムの放出(ダダ漏れ)を止められず海洋汚染が放置されている。

ストロンチウムはカルシウムと同じ挙動をするとされ、カルシウムの多い小魚・煮干し、海藻類、そして食物連鎖による生物濃縮が心配されている。

しかし測定するのが難しく高額の費用がかかるストロンチウムのベータ線(beta線)測定。国はきちんとした測定もしない。もう国には任せておけない。

福島は母親たちが立ち上げた市民測定所「たらちね」がベータ(beta)ラボ設立を全国に呼びかけた。常総生協もこのプロジェクトに参加します。



11/2 ベータラボ開所式・内覧会



右奥には試料をマイクロ波で破砕する最新鋭の機器



前処理で発生するガスを吸引フィルター処理する施設



試料を灰化するマッフル炉

組合員のみなさまへ アンケートのお願い

今週~来週にかけて、「関東地域における震災・原発事故影響住民意識調査」のアンケートが同封されています。

阪神大震災の経験・教訓から関西学院大学に設置された総合横断的な制度を提言する「災害復興制度研究所」からのアンケートです。

ぜひご協力をよろしくお願いいたします。〆切は11月4週(11/24-28)の週の供給便でお返し頂けますようよろしくお願いいたします。

【10/2 NPO いわき放射能市民測定室「たらちね」ベータラボお披露目会
事実に向き合う福島母親たち いわき放射能市民測定室



市民測定室「たらちね」を牽引する事務局長 鈴木薫さん

「事務局からのお願いはただひとつ。ラボの体裁は整いましたが、いよいよこれから。今後ともご支援をよろしくお願い致します。」

母親たちの強い決意で鈴木さんを先頭にベータラボプロジェクトも立ち上げ。関東での甲状腺検診もたらちねのみならずからたくさんの指導・助言を頂きました。



NPO いわき放射能市民測定室 織田理事長

「ベータラボを立ち上げる話があった時、私は基本的には反対の立場でした。その測定は非常に難しく煩雑、危険性も伴い、何しろ何千万ものお金がかかります。しかし、たらちねの女性たちは全く諦めなかった。来年4月からの稼働を目指していますが、こうしてご支援下さる皆様の期待に応えられるよう精一杯がんばります。」



β線測定の技術指導 天野光さん

東北大学、元日本原子力研究所、米国オークリッジ国立研究所、日本分析センター技術参与。工学博士。茨城県在住。

「ストロンチウムは国の公定法で3週間から1ヶ月かかるのですが、市民の皆さんのリクエストに応えるには1~2日で結果を出す必要があるだろうということで、最新鋭の機器を使って方法を模索し、メドがつかしました。事故を起こした福島第一原発には莫大な量の放射能がたまっている。いつ漏れ出すかわからない。検査試料の中にストロンチウムが入っていないことを望むが、継続して測っていないと危なくてられない。未来の子どもに良い環境、平和を引き継がなければならないと思います。」



組合員から測定の声が多かったストロンチウム測定・・・常総生協単独では困難
福島現地の市民測定の拠点「たらちね」のβラボプロジェクトに
常総生協も参加してゆきます！

○組合員からのストロンチウム測定の要請

「汚染水」が海にだだ漏れしていると言われる福島第一原発。ストロンチウムはカルシウムと同じ動態を示すことから、組合員からも太平洋岸の小魚（煮干しやじゃこ）や海藻類のストロンチウムの測定の声が多く上がっていました。

昨年生協からチェルノブイリ原発事故の現地ベラルーシに理事を派遣した際に、現地で古い機械を使っても日常的にストロンチウム90の測定が行われていることに驚きました。チェルノブイリに次ぐ大事故・汚染を引き起こした日本ではどうしてこうした体制をとらないのか、たいへん不思議でした（技術もカネもあるはずなのに・・・）。

○常総生協単独では困難・・・

そこで生協では今年1月に「同位体研究所」に煮干しのストロンチウム90の検査を委託しました。1検体25万円、約1ヶ月もかかる、しかも検出限界が1ベクレルと高く結果は「限界値以下」というものでした。外部検査に出しても必要な結果を得られない、膨大な費用もかかってしまう、継続した検査をどうするか悩んでいました。

○福島母親たちの決意

そんな折、いわき市民測定室「たらちね」の母親たちはストロンチウムなどのベータ線を自分たちの手で測ろうと決意し、周囲の反対を押し切ってプロジェクトをスタート。全国に協力を呼びかけてどう世界最先端の機器を導入し、専門科学者の協力を得てラボを立ち上げました。

○いわき市民測定室「たらちね」

いわき市民測定室「たらちね」は2011年10月に「原子力発電所の事故による広範な放射能被害の下で、不安な生活を強いられているわたしたち自身が、よりよく、より強く生きていくため」にと設立されました。

食材の放射能測定、ホールボディカウンターによる全身放射能測定、保養プロジェクト、土壌放射能測定、太平洋沿岸の東北から千葉までの砂浜放射能測定、2013年からは医師の協力の下に甲状腺検診を開始。そして今回ベータラボプロジェクトへと進んできました。

○「たらちね」さんとのおつきあい

いわき市民測定室「たらちね」とのおつきあいは、ひたちなかの母親グループによる昨年2月の西尾正道先生の講演会をきっかけに、茨城・千葉での甲状腺検診を市民の手で実現しようと、西尾先生が顧問をされていた「たらちね」に、昨年5月に甲状腺検診のイロハを教えてもらいに伺ったことにはじまります。

共に放射能汚染された地域の母親どうし、甲状腺検診のノウハウや手順を共有してくれ、たらちねの皆さんの協力のおかげで関東での甲状腺検診もスタートできました。

○常総生協も市民βプロジェクトに参加します

西尾先生からプロジェクト参加の呼びかけもあり、また鈴木事務局長さんら「たらちね」のみなさんからの事前の丁寧な説明も頂き、私たち常総生協も放射能汚染の事実を知り、健康影響を少しでも少なくできるこの市民プロジェクトに参加することとしました。

【市民測定所たらちねベータラボを支えるたくさんの人々】祝辞より



DAYS JAPAN前編集長 広河隆一さん

フォトジャーナリストとしてチェルノブイリ支援。広告をとらない雑誌DAYSJAPAN創設。レンズを通して世界の人々の人権を見つめる。福島事故ではいち早く現地に入り、支援を続けている。

「放射能から子どもを守る活動を実践する女性たちがここにいる。こうした団体は日本の中にはなかなか無いと思う。その中のひとつの甲状腺プロジェクトの中で役割を果たせた事はとてもうれしい。これから一緒に頑張りたい。」



北海道がんセンター名誉院長 西尾正道さん

関東子ども健康調査基金の甲状腺検診の協力医でもあります。常総生協へのプロジェクト参加も西尾先生よりお誘い頂きました。

「ベータ線を測ることで今すぐには何か変わるわけではないですが、この測定結果の積み重ねが20年後30年後健康被害が出た時にそれと突き合わせる。科学的データを積みあげられる体制がやってきました。これからがんばりましょう。」



未来の福島子ども基金 小児科医 黒部信一さん

黒部先生とは原発事故直後の「母乳調査・母子支援ネット」設立で知り合い、常総生協でも放射能問題の最初の講演をしてくださりました。

「ベータ線を測るなんて夢のまた夢と思っていましたが、それが現実になったのは、皆さんの努力、山田養蜂場さん、広河さん、ここにいる先生方、天野先生のご協力があったと思います。ありがとうございます。」



NPO法人 有害化学物質削減ネットワーク(Tウオッチ) 井上啓さん

化学物質の削減運動を長く続け、原発事故後は東京都の放射能測定活動をリード。東海第2原発差止訴訟の原告のひとり。

「放射能の測定と言うのは本来、国の仕事でしょう。それを放棄しておいて、私たち一般市民の浄財をこういう形で使わなければならない事態を招いてしまっている。」



高木基金 事務局 菅波完さん

反原発の市民科学者故高木仁三郎さんの基金。原発訴訟や脱原発の運動の裏方。脱原発弁護団連絡会や原告団全国連絡会でごいっしょしています。露ヶ浦放射能調査の支援も頂きました。

「ここが全国の市民測定所、放射能の不安を抱える人たちの期待と希望を受ける立場になるとと思います。」



山田養蜂場 文化広報室 早瀬さん

本社岡山。徳島での養蜂業から。事業の一つに社会活動。ベータラボプロジェクトにも資金援助。

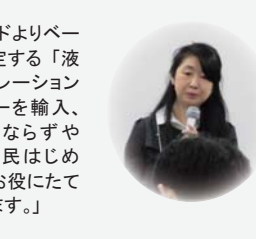
「たらちねさんとのご縁があってご協力させて頂くことになりました。ベータラボがひとまず完成して今日まで準備してきたスタッフの皆さまに”本当にお疲れさまでした”と申し上げたいです。」



チームママベク子どもの環境守りたい 小林ようこさん

子どもの環境を守るために環境放射能を測る測定隊。

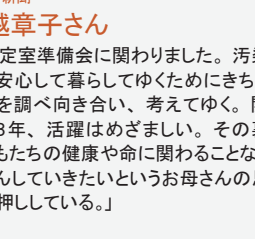
「ベータ線検種は微量でも影響が強く、いったん身体に取り込まれると一生内部被ばくを引き起こすのに測定されていないという事が気になっていました。それが身近な測定所で測れるようになったこと。多額の投資をして大変な測定に取り組むわたらの皆さん、それを支える全国のみなさんに感謝。」



桑和貿易社長 桑島進さん

フィンランドよりベータ線を測定する「液体シンチレーションカウンター」を導入、設置。かならずいわき市民ははじめ皆さまにお役にたてると思います。」

「測定室準備会に関わりました。汚染地帯で安心して暮らしてゆくにきちんと事実を調べ向き合い、考えてゆく。開設から3年、活躍はめざましい。その裏に子どもたちの健康や命に関わることならどんなにしていきたいというお母さんの思いが後押ししている。」



日々新聞 大越章子さん

「測定室準備会に関わりました。汚染地帯で安心して暮らしてゆくにきちんと事実を調べ向き合い、考えてゆく。開設から3年、活躍はめざましい。その裏に子どもたちの健康や命に関わることならどんなにしていきたいというお母さんの思いが後押ししている。」

「ひとりの親御さんから”どうして放射能測るのだ。黙ってればお母さんたちは不安じゃないのに”と言われました。私は”わからないから不安が増幅されるのです。わかって納得するために私たちは測っているんですよ”と申し上げましたら納得してくれました。」

常総生協 専務理事 柿崎 べータラボ開所式には常総生協から専務理事が出席し、あいさつさせて頂きました。